

【大台ヶ原】

吉野熊野国立公園の核心部に位置し、標高1,695mの日出ヶ岳を最高峰とする台地上の地形には、トウヒやウラジロモミ、ブナなどの自然林がまとまって残っており、大型哺乳類をはじめ、多くの鳥類、両生類、昆虫類などが生息しています。また、歩道が整備されており、雄大なパノラマ景観や原生的な森林などを楽しむことができます。

詳細はHPをご覧ください。→ [http://kinki.env.go.jp/nature/odaigahara/odai\\_top.htm](http://kinki.env.go.jp/nature/odaigahara/odai_top.htm)

【大台ヶ原での自然再生】

昭和30年代の伊勢湾台風等による風倒木の発生、ニホンジカの個体数の増加、利用者の増加など複合的な要因により、トウヒやウラジロモミ、ブナをはじめとする森林植生の衰退が進行したことから、環境省は昭和61年から対策に着手、平成17年には自然再生推進計画を策定し、現在、第三期計画となる「大台ヶ原自然再生推進計画2014」に基づき、「森林生態系、生物多様性の保全・再生」「ニホンジカ個体群の管理」「持続可能な利用の推進」を中心とした自然再生の取組を進めています。令和6年度には推進計画の中間評価等も実施しました。



※写真協力:菅沼孝之

【主な取組と近年の成果】

大規模な防鹿柵（70基 90ha）や稚樹保護柵等による森林生態系の保全・再生

※防鹿柵内の植生回復状況  
（参考No. 31防鹿柵）

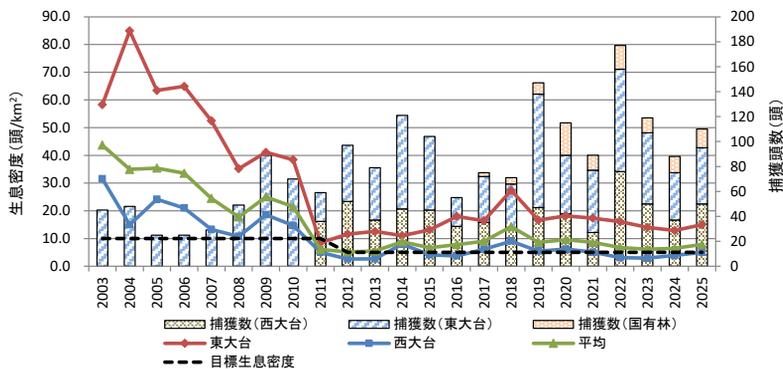
写真左：設置前は湿地性植物少ない  
写真右：設置後10年で湿地性植物群落  
が回復



生息密度5頭/km<sup>2</sup>を目標としたニホンジカの捕獲

- 環境省・林野庁・上北山村によるニホンジカ対策の連携協定に基づく捕獲の実施

※ニホンジカの生育密度は2003年に40頭/km<sup>2</sup>を超えていたが、捕獲の継続により、近年10頭/km<sup>2</sup>前後で推移。（右図）



持続可能な利用の推進・普及啓発

大台ヶ原の魅力を伝える自然ガイドの登録制度の推進、環境教育推進のための情報整理等を実施。

※登録ガイドによる特別プログラム（自然再生ツアー等）など登録ガイドのメリット創出に向けた実施検討や課題整理などに関係機関と実施。



有識者による登録ガイドを対象とした勉強会



大台ヶ原ガイドウォーク